

ACS日本支部ニュース

NEWSLETTER FROM THE JAPAN CHAPTER
OF AMERICAN COLLEGE OF SURGEONS

2012. Apr. Vol.4

主な内容

- 心から敬愛した出月康夫先生を偲んで(谷川允彦).....P1
- 出月康夫先生をお徳びして(高木淳彦).....P2
- 故、出月康夫先生とACS(山川達郎).....P3
- American College of Surgeons(ACS)の日本支部長を拝命して(矢永勝彦).....P4



故 出月康夫先生

東京大学医学部名誉教授
埼玉医科大学名誉教授
愛和会南千住病院名誉院長

略歴

昭和9年1月:東京に生まれる
昭和35年3月:東京大学医学部医学科卒業
昭和36年5月:インターン修了後、東京大学医学部第2外科学教室入局
昭和41年3月:東京大学大学院医学系研究科第3臨床課程修了:医学博士
昭和41年6月:フルブライト奨学金によりミネソタ大学医学部外科に留学
昭和44年5月:文部教官、東京大学
昭和45年2月:東京女子医科大学第1外科学教室 講師
昭和47年8月:東京女子医科大学第2病院外科学教室 講師
昭和48年8月:聖マリアンナ医科大学第1外科学教室 助教授
昭和58年4月:聖マリアンナ医科大学第1外科学教室 教授
昭和59年8月:東京大学医学部外科学第2講座 教授
平成6年4月:東京大学医学部名誉教授
平成6年5月:埼玉医科大学総合医療センター第2外科教授
平成13年5月:南千住病院 名誉院長

役職

日本医学会副会長(平成14-19年)、日本外科学会名誉会長、日本臨床外科学会名誉会長、日本消化器病学会名誉会員、日本肝臓学会名誉会員、日本移植学会名誉会員、外保連名誉会長、日本内視鏡外科学会名誉理事長、日本門脈圧亢進症学会顧問、米国外科学会名誉会員(American College of Surgeons, Honorary Fellow)、万国外科学会名誉会長(International Society of Surgery, Past President)、南アメリカ医学会名誉会員

門脈圧亢進症、食道静脈瘤の治療、内視鏡外科手術の日本への導入ならびに内視鏡外科学会初代会長としてその普及に功績を残す。

心から敬愛した出月康夫先生を偲んで

谷川記念病院 理事長

谷川 允彦 (ACS Governor at large from Japan)

Nobuhiko Tanigawa, MD, FACS

Past President of the Japan Chapter, Governor, American College of Surgeons

新しい年を迎えたばかりの今年の1月7日に出月康夫先生の告別式が聖ヶ丘教会で厳かにとりおこなわれました。学友をはじめとして親交のあった方々の言葉はそれぞれに気持ちの籠った素晴らしい送辞でしたし、参列者に対する奥様のご挨拶も冷静で、心和むものでした。牧師の手慣れた取り仕切りで平穩に式は推移してゆき、最後に参列者のそれぞれは遺体の傍らに供花するという恒例の場面に移っていきました。一輪の小さな百合花を持たされて先生の近くまで差し掛かったときでした。ふっと先生のお顔を右斜めから仰ぎ見るように拝見した折に、突然にこみあげてくるものに我慢が出来ず、思わず涙がとめどもなく溢れてきました。お顔はとても上品に見え、先生を象徴する聡明な雰囲気が残されていることが当方の残念な思いを強く刺激したようでした。“残念でしたね。もう少しご指導頂きたかったですね。”とお声掛けしたい思いとともに、お世話になった数々のことが走馬灯のように駆け巡りました。それほどに、自らが感情を高ぶらせるとは思っていなかっただけに、いささか動揺してしまいました。

その結果、跡見裕先生、炭山嘉伸先生、木村泰三先生、松本純夫先生、小西敏郎先生、望月英隆先生、国土典宏先生、あるいは山川達郎先生、比企能樹先生ご夫妻など参列を確認していた旧知の方々に挨拶をする余裕もなく、急ぎ足で教会を後にしたことでした。小生が初めて出月先生を拝見したのは1980年代に京都宝ヶ池の会議場で開催された国際学会で戸部隆吉京大教授(当時)の講演を司会されていた東大教授時代の先生でした。“戸部教授は謙虚な方ですから……”と綺麗な英語のソフトな語り口で司会をされていたのを今も思い出します。小生は1997年に大阪医科大学教授に就任しましたが、当時、恩師の京大教授は既に他界され、母校からの支援の無い状況にありましたが、そうした中で、ご自身が初代理事長として立ち上げられた日本内視鏡外科学会の理事に推薦していただいたことはその後の小生の教室運営、学会活動に大きな支えとなっていきました。2006年に京都で開いた第19回日本内視鏡外科学会総会や2009年に同じく京都で開催した第71回日本臨床外科学会総会

などそれぞれ手ごたえを感じる事ができた学会運営の経験も出月先生の力添えが無ければ叶わないことでした。米国外科学会(ACS)日本支部は出月先生が第92回日本外科学会総会会頭を務められた1992年3月にACSと日本外科学会の交流・連携を促進することを目的に立ち上げられ、その後しばらくは当該年度の外科学会総会会頭が日本支部長を兼務することで運営されていました。しかし、一年任期の支部長では十分な成果はおさめ難いことと、規約のうえで、ACS本部に任命権のあるInternational Governorsの中の日本側Governor (Governor at large from Japan) との異同も問題があることから、支部長任期を三年に延長するとともに、日本側Governorを兼ねることにして、両学会の連携を強化することを目的に2001年から山川達郎帝京大学教授(当時)がその任にあたられ、2007年より小生にご下命をいただきました。高折恭一事務局長(現京大肝胆膵移植外科)の強力な支えを得て、ACS日本支部の規約改訂、日本人フェロー(FACS)の増加をはかり、ACS

年次総会プログラムへの日本人FACSの参加などを促すとともに、ニュースレターを定期的に発行する体制を構築してきました。こうした経験はいつも出月先生の意向に叶うようにという思いが突き動かしてきたように感じています。“私はかねてから学閥にこだわる考えに抵抗を感じてきているのです”。出月康夫先生から2006年秋、シカゴで開催された第92回ACS年次総会Governors' Receptionで語りかけていただいたお言葉も耳に残っています。このことをはじめ、折に触れ、先生から具体的なご教示をいただいて参りました。小生の人生の中でも最も強く影響を受け、ご指導をいただいたお一人であることに違いありません。告別式における小生の涙は出月先生が終末を迎えられたことに悔いがあったかという思いからでしたが、それは間違っていたのかも知れません。”私は思う存分に歩んできました。自らの人生に満足しています。“とっておられたようにも感じられ、またそうであったことを心から願う次第です。 合掌



出月康夫先生をお偲びして

FACS,元東京大学第二外科講座講師

高木 淳彦

Atsubiko Takagi, MD, FACS

恩師出月康夫先生のご逝去を
いたみ、謹しんでご冥福をお祈り
いたします。

私は東京大学第二外科において
先生のご薫陶を受けた者の一人と
して、ご生前のご指導に感謝の誠を
捧げながら思い出を綴らせていた
だきます。

出月教授は昭和59年4月1日から
平成6年3月31日まで第二外科教室
を主宰されました。初代佐藤三吉教
授から数えて9代目にあたり、教室の
伝統を継承しながら、進取の気概を
もって教室員を指導されました。東京
大学の外科学講座はその後大学院
構想とともに臓器別に再編成されま
したので、総合的な外科教室としては
最も充実した輝かしい時代でした。
大外科教室として、教授の本来の専
攻であった肝胆膵外科をはじめとし
て、消化管外科、血管外科、乳腺内
分泌外科、更に移植外科、人工臓器
まで幅広く外科の教育、研究、臨床
に邁進されました。出月教授門下
からは東大教授はじめ、大学教授、准
教授、病院長、外科部長が多く輩出
され現在活躍中です。当時の医局カ
ンファランスでは居ながらにして広範
囲にわたる外科関連の知識や最新
の研究成果を学ぶことができました。

外科臨床の表舞台である手術室に
おいては、術者として手技の手本を
示しながら、助手の一举手一投足を
こと細かに指導されました。教授の流
儀に慣れないうちは厳しい叱責をい
ただくことが多く、手指の関節がこわ
ばる程でした。思い通りの展開にな
ると「それでいいんだよ」と優しい言葉
になりました。激しい口ぶりの一方
では期待をこめた温情あふれる言葉
をかけることも忘れず、教室員の奮起
を促しました。最後の皮膚縫合まで丁
寧に仕上げ、快心の手術が終了した
ときには、ほっと緊張がやわらぎ助
手、麻酔医、ナースに感謝の言葉を
かけられました。医局員がはじめて
術者を経験した手術の成功を祝っ
て昼食会を催すときには、医局で
一緒になって嬉しそうに箸を運ん
でおられました。

悪性腫瘍の縮小手術については
はじめ否定的でありましたが、若い医
局員の勉強ぶりや熱心さを評価する
とともに時代の流れをとらえて、ある
時から方針転換され臨床における柔
軟さを示されました。また、従来
の手術手技や発想を一変させた腹腔鏡
下胆嚢摘出手術をみずから修得され
て、教室のみならず本邦の内視鏡外
科手術を一気に世界的レベルに押し

上げました。ミネソタ大学留学によ
って培われた英語力は教室員に大き
な刺激を与え国際感覚を醸成するの
に役立ちました。医局員の中には普
段口数の少なかった者が英語の発表
や討論になると、まさに立板に水の
すばらしい発音や文章表現を披露し
て認識をあらためさせたこともあり
ました。国際学会では万国外科学会
をはじめ多くの参加を促し、ACSに
は先生のご推薦によってFellowにな
った者がふえて日本支部の発展に貢
献しました。

教室のスタッフ会議では問題点を
要領よくまとめて多くの議論をひき
出し、最後には熟慮したご自身の
方針を見事な落し所として示されま
した。私も医局長としてお仕えた折
に人事の妙を学ばせていただきました。
このような采配は各学会、国際学会
の中核部でも示されたものと思いま

す。教授ご退官後の医学界へのご貢
献については多くの先生方から称賛
され高い評価を受けられました。

先生のご尊父は教室の先輩でも
あった出月三郎博士であり外科医・
陸軍軍医として活躍されました。先
生には外科医の素質が生まれながら
にして備わっていたこととなります。
御家では内助の功を果たされた奥様
とともにあたたかい家庭を大事にさ
れていました。先生の10年間をお支
えた私共は、もはやその温顔に接す
ることはかなわなくなりました。

先生のお示しになられた外科医の
精神は各領域で発揮され、新たな歩
みを進めています。

今頃、先生は天国の水辺でしずか
に釣糸を垂れながら、愛唱歌の「五
番街のマリー」を口ずさみながら、
日本の外科の将来に思いをめぐらせ
ておられることでしょう。合掌。



STORZ
KARL STORZ - ENDOSKOPE
THE DIAMOND STANDARD

製造販売業者:



エム・シー・メディカル株式会社

お問合せ先:

本 社 〒108-0075 東京都港区港南2-16-1 品川イーストワンタワー 12F
Tel: 03(5715)2800(代) Fax: 03(5715)2801

東 京 支 店 Tel: 03(5665)7080(代) 名古屋支店 Tel: 052(962)7855(代)
大 阪 支 店 Tel: 06(6271)7855(代) 北日本支店 Tel: 022(215)3390(代)
九 州 支 店 Tel: 092(476)0833(代) 札幌事務所 Tel: 011(804)5350(代)
<http://www.mcmed.co.jp>



PERMAFIX[®]

Permanent Fixation System
体内固定用組織ステーブル

3S Design

**SAFETY
STRENGTH
SECURITY**

販売名: バード パーマフィックス
承認番号: 22300BZX00168000

※製品の仕様・形状等は、改良等の理由により予告なく変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。 ※事前に必ず添付文書を読み使用上の注意等を守って正しくご使用下さい。 ※Bard, バード, PERMAFIX, パーマフィックスは、C.R.Bard社の登録商標です。 Davol, デイボルは、DAVOL社の登録商標です。

製造元



DAVOL INC.

製造販売元



株式会社 **メディコン**

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 (平野町センチュリービル1F)
06(6203)6541(代) <http://www.medicon.co.jp>



故、出月康夫先生とACS

帝京大学医学部名誉教授

山川達郎

Tatsuo Yamakawa, MD, FACS

Past Governor, Japan Chapter of ACS (1995-2001)

数カ月前までは、ご子息と魚釣りにお出かけになるほどまでにお元気になられ、御病気を克服されたと思っておりましたのに、先生には、昨年の暮れから再発徴候が現れ、ゆっくりお話しする間もなく、御逝去あそばされたことは、私どもにとって、大変、残念な出来事でありました。まだまだお教えいただくことがたくさんありましたのに、残念でなりません。心からの哀悼の意を表します。

先生は、1973年、Fellow of American College of Surgeons (FACS)になられ、藤井功一先生、櫻井健司先生に次いで、第3代目の日本支部Governorを1995年から2001年までお勤めになられました。また1996年には、Honorary Fellowの称号を授与され、今日まで、リーダーとして私どもをお導き下さいました。本当に御苦労さまでした。感謝申し上げます。

私は、1984年、当時の日本支部長であられた藤井功一先生の御推薦と私の恩師であるCedars Sinai Medical CenterのProfessor Leon Morgenstern、University of

RochesterのProfessor J. Raymond HinshawやUniversity of TexasのProfessor Frank G. Moodyらの推薦をいただき、憧れのFACSの称号を賜りました。その後、日本内視鏡外科研究会あるいは万国外科学会の活動を通して、1990年以来、公私にわたりお世話になってまいりました。想えば、娘の台湾での結婚式に御出席いただくなど我儘なお願いを申し上げ、叶えていただいたこともございました。本当にありがとうございます。

そんなある日のことです。突然、先生から日本支部長に推薦することをお電話を賜りました。当時の私には、Governorの重責を全うする自信は全くありませんでしたので、ACS本部からGovernorに指名するとの報告を受けるまでは、先生の後を次いで、2001年から2007年までGovernorを務めさせていただくことになろうとは真剣に考えてもいませんでした。事実、就任して最初のBoard Meetingは、緊張の極にありました。しかし先生にお会いして、ほっとしたこと、そして勇気づけられたことを、今も忘れることができません。先生も、私に任せるのは心もとないと思われてのご出席で

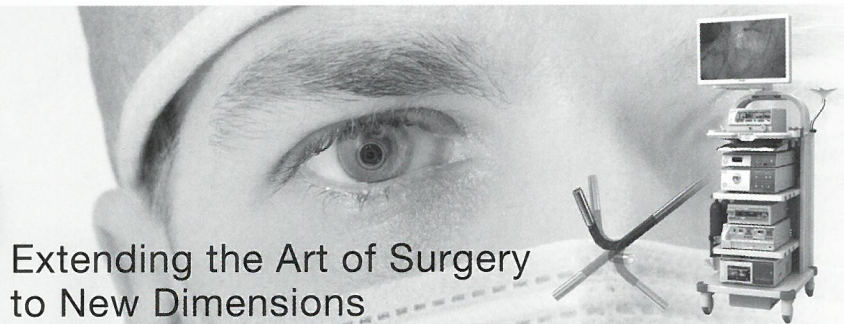
あったのではと思っていますが、それから色々とお指導を賜りました。先生のお導きなくして、あの大任を果たすことができなかつたのではないかと今も思っています。またこんなこともありました。ACS会期時に、香港グループなどは、更なる友好を目的に、日頃、お世話になっている外国の友人などを誘って、歓談する会を開催していますが、それをまねて、日本人の挨拶などは省略した日本支部会員と外国の友人の懇親を深めることのみを目的とした日本支部会員懇親会を開催したところ、先生から大変お褒めいただいたことも忘れられない思い出の一つです。先生は、常に、日本人の立

場というよりは世界的な視野に立って、日本支部会の将来をお考えでした。本当に、真の国際人であったと尊敬しています。こうした先生の在りし日の御言動は、これから私ども日本人がとるべき態度を示唆するものであり、私たちの心に何時までも生き続けることでありましょう。

これから先生の意を継ぎ、志のある若い日本の外科医が、国際人として活躍してくれるに相違ありません。これまでのご教導に心から感謝します。出月康夫先生、安らかに休み下さい。

OLYMPUS

Your Vision, Our Future



Extending the Art of Surgery to New Dimensions

内視鏡手術の未来に挑むエリートたちへ。VISERA シリーズの到達点、VISERA ELITE。内視鏡医療の進化を支えてきたオリンパスのVISERA シリーズ。その集大成となるシステムが誕生しました。究極のストレスフリーとより精緻な手術の実現をめざして、観察性能と取扱性能のトータルパフォーマンスを追求。VISERA ELITE、内視鏡医療の未来に挑むエリートたちに贈る精緻システムです。

**VISERA
ELITE**

オリンパス メディカル システムズ株式会社 〒163-0914 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス www.olympusmedical.jp



Single incision. Single port. Simple choice.

COVIDIEN

positive results for life™

SILS™ Port



販売名：ステップシステム
医療機器承認番号：20900BZY00979000

製造販売元 **コヴィディエン ジャパン株式会社**
〒158-8615 東京都世田谷区用賀 4-10-2
TEL (03) 5717-1270 FAX (03) 5717-1279 <http://www.covidien.co.jp>

COVIDIEN、COVIDIEN ロゴマーク及び "positive results for life" は Covidien AG の商標です。TM を付記した商標は Covidien company の商標です。©2012 Covidien.



American College of Surgeons (ACS)の 日本支部長を拝命して

東京慈恵会医科大学 外科学講座消化器分野

矢永勝彦

Katsuhiko Yanaga, MD, PhD

President, Japan Chapter of American College of Surgeons

2011年11月よりAmerican College of Surgeons (ACS)の日本支部長をご下命いただきました。大変名誉なことであり、皆様のご高配に心より感謝いたします。若輩ですが、何卒よろしく願いいたします。ACSは私にとって特別の組織です。卒業後2年目から3年間、一般外科レジデントとしてPhiladelphiaのHahnemann医科大学とその関連病院であるEaston HospitalならびにCrozer Chester Medical Centerで一般外科を中心に、胸部外科、心臓外科、移植外科、脳外科、産婦人科、泌尿器科、整形外科、内視鏡科、外傷・火傷外科を含めて1-3か月単位でローテーションしました。その間、多くのattending surgeonsと仕事をする機会を得ましたが、community hospitalの高齢外科医を除き、Board-certifyされた方々で、自らが受けた厳しい外科の修練に誇りを持ち、後輩らが同様のprofessionalismを会得することを期待しておられました。一生懸命周術期管理に励むレジデントには惜しげもなく執刀の機会を与えていただき、さらに勤勉であること、時間を守ること、正視する姿勢、患者の視点に立ったものの考え方、倫理感などの

重要性を直にご指導いただきました。Program Directorが修了医のBoard合格率を上げるために手術教育やJournal clubなど教育体制を整備し、レジデントは毎年全米の外科レジデントが受けるIn-training examinationの成績で己の外科知識のレベルを還元され、多忙でしたが充実した3年間を送りました。その後、卒業後8年目から3年間Pittsburgh大学に勤務したこともあり、今でもACSのClinical Congressに参加すると会場を目をきょろきょろさせて昔お世話になったattendingとの再会を期待しています。

ACS日本支部は歴代のGovernorならびに支部長らのご尽力により、米国以外ではメキシコに次いで会員数が多い支部です。そして会員の皆様は、わが国の外科領域の医学・医療を代表する国際性豊かな方々です。日本外科学会との連携も進んでいます。わが国では医療が変革期にあります。社会とマスコミが医療の不確実性を理解し、外科医の減少が医療に及ぼす切実な問題を認識し、ようやく手術料の増点や外科医の待遇改善の必要性が認知されつつあります。我が国の国民性として、内部からの改革はなかなか進まない一方、外圧

には弱いことが知られています。米国と日本を同列に論ずることはできませんが、米国、あるいは海外の医療を知る立場のACS日本支部会の皆様、我が国の外科のオピニオンリーダーとして力を合わせ、我が国の外科の健全な発展に貢献することができる

と確信しております。何卒宜しく本支部へのご支援とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

最後にACS日本支部の今後の益々の発展と、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

事務局 便り

ACS日本支部事務局を引き継いで

東京慈恵会医科大学外科学講座、同葛飾医療センター
吉田和彦

Kazuhiko Yoshida, MD, FACS
Secretary of the Japan Chapter, American College of Surgeons

2011年11月にAmerican College of Surgeons (ACS) 日本支部の事務局を、京都大学の高折恭一先生より引き継ぎました。今後はガバナーの谷川充彦先生、今回日本支部会長に就任された矢永勝彦先生とともに、ACS日本支部の運営に当たらせていただきますので、ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。ACS日本支部は、ACS本部とより緊密な連携を取る目的で、2007年5月より、ガバナー(任期3年・2期まで)が日本支部長を兼任することとなり、2007年5月より4年半の間、ACS日本支部会長は谷川先生が、事務局長は高折先生が務められ、今回、矢永先生と私が引き継ぎを受けた次第です。

谷川先生と高折先生のご努力のもと、Bylawsの改訂や会員名簿の整備など、日本支部の活動基盤が整えられました。またこの4年間で100名を超えるfellowが誕生、そしてACS日本支部ニュースも刊行されました。今後も日本支部が最も活動的なACSの国際支部として、さらに発展するよう、矢永先生ともども微力ながら尽力する所存です。会員皆様からの、より一層のご支援をお願い申し上げます。

ACS日本支部事務局 吉田和彦

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
TEL.03-3603-2111 FAX.03-3838-9945 e-mail:kaz-yoshida@jikei.ac.jp



It's New! HARMONIC FOCUS® Long Curved Shears

Efficiency in Open Procedures

超音波振動による組織の凝固・切離に加え、
繊細な剥離を可能にする細いカーブ型ブレードと長さ17cmのシャフトは
深部での操作が必要な開腹手術の効率化をサポートします。

